

将門と鎧神社



「鎧神社」の社名は、平安時代、平貞盛・藤原秀郷連合軍が平将門を討ちとり、その鎧を埋蔵して将門を厚く弔ったと伝えられています。この地は「天慶の乱」の際に将門の弟将頼が陣地にしたとも伝えられています。また、病に苦しむ秀郷が境内に将門の鎧を埋めてその霊を弔ったところ病が全快したという伝承も伝えられています。

鎧神社 新宿区北新宿3-16-18 [MAP P.10-11] B-1



策の井

「策の井」は、松平摂津守の下屋敷内にあり、徳川家康が鷹狩りから江戸城に戻る途中に汚れた「策」を洗ったという伝承に由来します（「江戸砂子」より）。晩年は駿府へと隠退して大御所と称された家康は、年に数回は江戸城に滞在し、度々鷹狩りに出ていたといわれています。元々「策の井」は新宿西口の「新宿エルタワービル」付近にありましたが、現在は蓋をされ、同ビル西南隅の植栽にモニュメントが建てられています。

策の井 新宿区西新宿1-6-1 [MAP P.10-11] B-3

東海道 四谷怪談



江戸時代後期の歌舞伎脚本作者、四代目鶴屋南北が書いた有名な怪談話「東海道四谷怪談」に基づきます。四谷左門町の浪人・伊右衛門が不義をしたうえにお岩を毒殺し、その亡霊に復讐されるといいう物語です。しかし実際のお岩夫婦は円満で、養子伊右衛門とともに家勢を再興したことから、お岩にあやかるうと、お岩稲荷の信仰が盛んになったといわれています。明治5年頃、「於岩稲荷田宮神社」と改められ、現在は子孫の11代目がお岩稲荷の旧地を守っています。

於岩稲荷田宮神社 新宿区左門町17 [MAP P.12-13] C-3



豆腐屋を 改心させた 地蔵

東福院の境内にある「豆腐地蔵」の伝承です。昔、東福院横丁に一軒の豆腐屋があり、陰で悪い商売をしていました。この豆腐屋に毎晩お坊さんが豆腐を買いに来るようになり、それを狐のいたずらだと思い込んだ豆腐屋は、お坊さんを切りつけました。落ちていた血の跡を辿っていくと、そこは東福院の地蔵尊だったので、そこで豆腐屋は心を入れ替え、以後真面目に働くようになったということです。

東福院 新宿区若葉2-2 [MAP P.12-13] C-3

TOPICS

大都会・新宿にあふれる 伝説と伝承

古くから要衝として栄えた新宿には、数多くの伝説・伝承が残っており、その数は130にも上ります。中には江戸時代の鶴屋南北による「東海道四谷怪談」のように、脚色され物語として広く知られようになったものもあります。

今回ご紹介した4話以外にも様々な話が伝えられています。新宿「丁目の太宗寺」には閻魔大王像が、泣き止まない子どもを食べたという「つけひも閻魔」の伝説が残っています。

また、大聖院の「紅血の墓」は、太田道灌ゆかりの「山吹の里」伝説の乙女、紅血の墓と伝えられています。

富久町の蜘蛛切り坂（別名・禿坂）には、千年ほど前、渡辺綱という武士が大蜘蛛を退治した「クモの井戸」伝説があり、歌舞伎の有名な演目「土蜘蛛」はこのお話がもとになったとされています。

市ヶ谷の逢坂は「さねかつらの恋」という恋物語の舞台になっています。奈良時代、武蔵守を命じられた小野美佐吾が美しい娘と恋仲になりましたが、都への帰任が決まります。娘が忘れられない美佐吾は病に伏せ、ついに亡くなってしまいますが、娘の夢でこの坂で再会しました。この伝説にちなんで「逢坂」と呼ばれるようになったといわれています。

済松寺には、江戸時代の慶安の変の首謀者である由比正雪が、このお寺の境内に道場を開き、近くの井戸を槍で突いたところから「水槍」の伝説があります。

西早稲田の宝泉寺は平将門の乱を平定した藤原秀郷が草創し、毘沙門堂を建てたと伝えられ、高田馬場跡には赤穂浪士として名高い堀部安兵衛が叔父の菅野六郎左衛門の果し合いの助太刀のため、高田馬場に駆けつけて相手方三人を切り倒したという話が残っており、水稲荷神社には後の吉良邸討ち入りの功績を讃えた石碑があります。

数多くの伝説、伝承は庶民によって語り継がれてきました。そこには当時の生活、風俗、もの見方や考え方が反映されています。何気ない場所にも伝わる物語に思いをはせながら散策を楽しみましょう。

新宿区の伝説・伝承を探そう！

イラスト / ヨシダケン

新宿物語マップ

